

# 奥山儀八郎の生涯と奥山義人氏の仕事

版画家・奥山儀八郎の作風は、彼の行動とともに生涯に何度か大きく変容しました。ここでは彼の生涯を下記の3つの時期に分け、今回の出品作品の番号を掲げます。

1. 昭和初期：1928（昭和3）年～1938（昭和13）年  
広告版画家として、東京・丸の内のニッケ（日本毛織）のポスターを制作した時期（no.45～48）
2. 太平洋戦争の前後：1939（昭和14）年～1954（昭和29）年ごろ  
日本の伝統木版画の復興というライフテーマのもとに、彫師、摺師と協同で浮世絵版画技法による制作、江戸浮世絵版画の復刻事業に取り組んだ時期（no.49～51）
3. 松戸時代：1954（昭和29）年～1981（昭和56）年  
松戸市下矢切に転居し、奥山版画工房を開設してから晩年まで（no.52～56）

このうち、3の松戸時代に儀八郎の制作を支えたご子息の奥山義人氏が、2020年4月11日、85歳で逝去されました。

奥山義人氏は、儀八郎の没後はその仕事を継承し、儀八郎が版画家としての活動のかたわら1934（昭和9）年から取り組んだコーヒー飲用史研究とコーヒー版画を「コーヒー文化学会」の場で深められました。また「東京伝統木版画工芸協同組合」の理事として、江戸浮世絵木版画の復刻事業を監修、校正され、若手技術者の育成と技術の継承に尽力されました。

松戸市に対しては、ほぼ全ての儀八郎作品をご寄贈くださっています。この場を借りて義人氏のご厚意に感謝を申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。